

ユニバーサル と ユニーク をつなぐ 大学での教育的支援

2

主体的に生きる力を育む

～ 対話によって“レジリエンス”を高める試み～

障害のある子どもが十分に教育を受けられるための 合理的配慮及びその基礎となる環境整備

□ 「合理的配慮 Reasonable Accommodation」 (署名時仮訳)

❖ 第2条 定義

- ❖ 「合理的配慮」とは、障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう

□ 「ユニバーサル・デザイン (Universal Design)」

- ❖ 調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で全ての人が使用することのできる製品、環境、計画及びサービスの設計をいう。
- ❖ ユニバーサルデザインは、特定の障害者の集団のための補装具が必要な場合には、これを排除するものではない

3. 障害のある子どもが十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備

4

□ 「合理的配慮 Reasonable Accommodation」 (署名時仮訳)

❖ 第2条 定義

❖ 「合理的配慮」とは、障害のある者が、他の者と同等の機会を享受し、及び基本的ニーズを満たすために必要な調整及び変更であつて、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう

個別的・具体的な支援 = 「合理的配慮」
Unique

□ 「ユニバーサル デザイン (Universal Design)」

❖ 調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で全ての人が利用可能な設計

全体に向けた支援 = 「基礎的環境整備」
Universal

❖ ユニバーサルデザインは、特定の障害者の集団のための補装具が必要な場合には、これを排除するものではない

◆ Reasonable…（「合理的」の訳）

1. 道理をわきまえた，わけのわかる，無理を言わない
2. 道理に合った，筋の通った，無理のない，穏当な，そこそこの，手頃な価格の

◆ Accommodation…（「配慮」の訳）

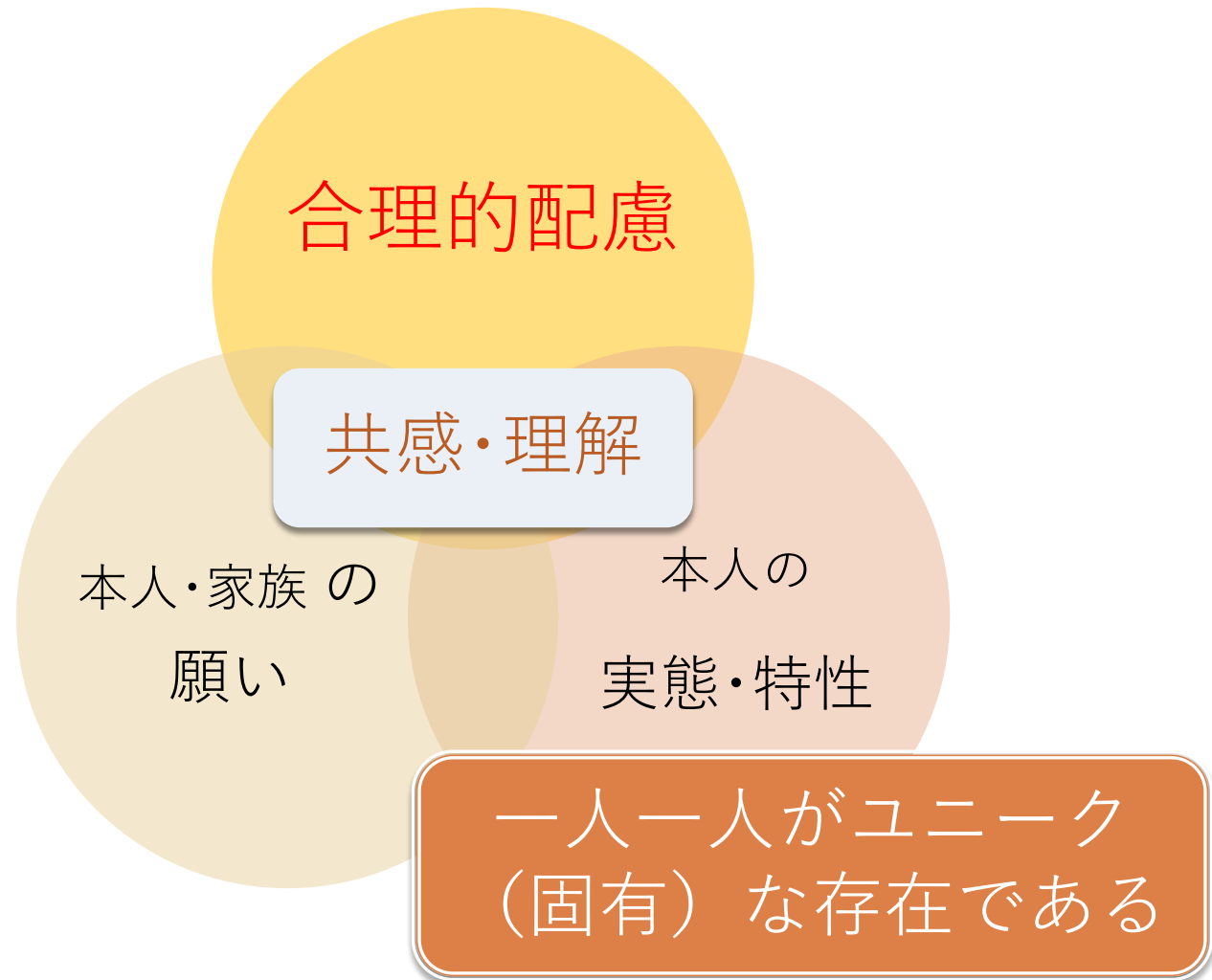
1. 変更，調整
2. 便宜，親切，好都合な事

❖ 「合理的」…① 論理にかなっているさま。因習や迷信にとらわれないさま。② 目的に合っていて無駄のないさま。

❖ 「配慮」…心を配ること。他人や他の事の為に気を遣うこと

「合理的配慮」と「実態・特性」はセット

6



合理的配慮 提供のプロセス

7

- 「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針の策定について」（平成27年11月：局長通知）
 - ▶ 政府による「障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針」を踏まえたガイドライン（対応指針）

- ① 本人・保護者からの合理的配慮の申し出
- ② 合意形成に向けた本人・保護者との建設的対話
- ③ 個別の教育支援計画等への明記
- ④ 合理的配慮の提供
- ⑤ 定期的な評価
- ⑥ 柔軟な見直し

意思の
表明

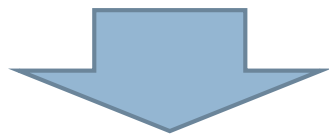
Plan
Do
Check
Action

教員養成大学だからこそ…の気付き

8

□ 小・中学校等の教員にとって…

- ▶ 障害の有無に関わらず…
- ▶ 子どもたち一人一人の学びを保障することは「**至
上の命題**」である



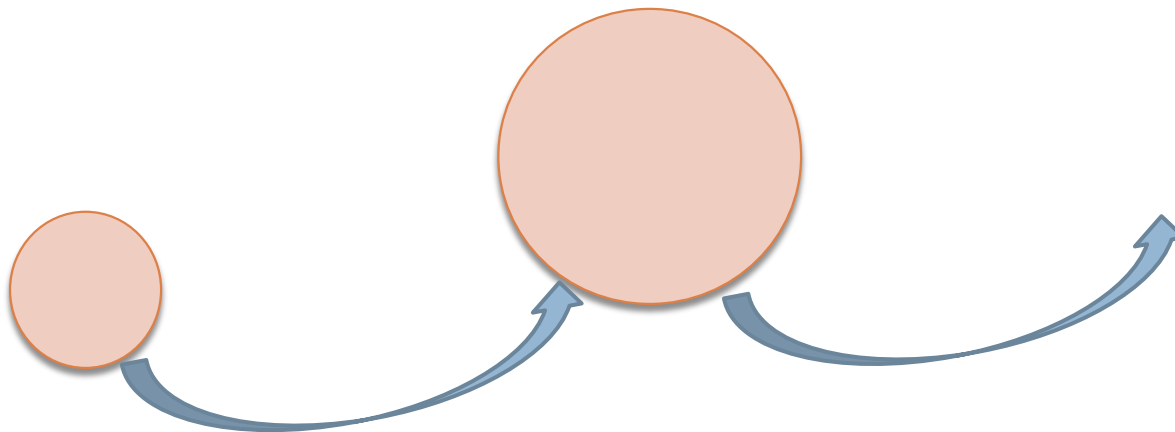
□ その教員を養成する大学で…

- ▶ 障害の有無に関わらず…
- ▶ 学生一人一人の**学びを保障しない**ということは「**あり得ないこと**」である

「学び」とは. . .

9

- 新しい知識 や 新しい経験 を自分の生きるチカラに変えていくこと
- 生涯続く 自分の「アップデート」
(更新) 作業である



自分理解を促進する支援

10

- 障害，不適応や不登校などの苦しい経験（二次的な問題）等を通じて得た様々な経験



- 「成長」につながる意味付けができるよう支える
 - ▶ 「自分理解」の促進



α -機能（母性的機能）

- 対話による支援を通じた『バージョン・アップ』
ヒトとしての成長・新たなステージへ

共感・共有の可能な存在がカギ

“対話”の「意義」と「機序」①

① なぜヒトは話をすると楽になるのか？

- ❖ 不安や不満は消化されるまで居座り続ける
- ❖ しかも、「分からない」「モヤモヤした」ままでは消化もされない
 - 思い出せない「あの曲? . . .」
- ❖ 「言葉にする」という行為は、「分からなかった」モノに名前を与えて対象化を促す
- ❖ 対象化されたモノは、考えたり扱ったりできるモノとなり、「消化する」ことを可能にする
 - 「分かった」途端にスッキリする

“対話”の「意義」と「機序」②

- ② なぜヒトは誰かに聴いてもらおうと安心するのか？
- ❖ 危険や不安を感じると、アタッチメント（≡愛着）欲求が活性化する（誰かに傍にいてほしい気持ち）
 - アタッチメントの希求が満たされると、安心する
 - アタッチメントで得られる安心感は、理屈抜きの乳幼児期の原始的な感覚への回帰と反復となる
 - ✧ ただし、乳幼児期に絶対的な安心感・安全感を経験していることが前提となる → 被虐待経験の破壊的な影響
 - ❖ 安心できると、ヒトは自分に生じていることを探索し始める
 - 外界からの助言や情報を求め、内省を深めることを可能とする

“対話”の「意義」と「機序」③

13

- ③ なぜヒトは誰かに聴いてもらうと勇気が湧くか？
- ❖ 自分には話を聴いてもらう価値があることを再確認する
 - 「自尊心」が回復し、「自己肯定感」を増す
 - 自己肯定感が増してくると、多少の不快な経験にも傷付くことがなく、不安や不満に対する耐性が上がってくる
 - ❖ 「独りではない」と感じられると、目の前の現実に向き合う勇気が湧いてくる
 - 他者との繋がり、「絆」に支えられている感覚が生まれる
 - 辛く苦しい経験も「二人で分ければ半分」になる



レジリエンス resilience

「レジリエンス resilience」 とは？

14

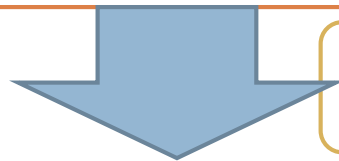
- ◆ 「柔軟性」「復元力」「折れない心」等と訳される
 - ▶ “不安・不満に負けない”チカラ
- Bonanno,G の「悲嘆」に関する研究より
 - ❖ 「極度の不利な状況に直面しても、正常な平衡状態を維持することができる能力」と定義
 - ▶ 「レジリエンスの高い人は、悲嘆の過程において、喪われた関係について思い出すことによって慰めを得られる」
 - ▶ 「貧困や虐待を受けたものの、それに耐えている子どもには、話すことができ、頼ることができて、他の全てが崩れ去ろうとも一緒にいてくれる誰かが必要である」

こころの免疫力 = レジリエンス

15

- 具合が悪い時，誰でも「抵抗力」が弱まっている
 - 健康であれば気にも留めない「不安」や「不満」が襲いかかってくる

- 「自己-対話」の力（≡内省する力）が，カギとなる
 - 良き関係性を通じて，心の内に築かれた「良き対話の相手」が，われわれの心を支えている．．．心の免疫システム



異物（苦痛・不快）の排除

- ① 良き対話相手を確保すること
- ② 自己-対話を通じて，自分理解を深めること

特別支援教育の視点から

～ 主体的に障害を生ききるための教育的支援 ～

「自立活動」の視点から

17

□ 目標

- 「個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達
の基盤を培うこと」

□ 内容

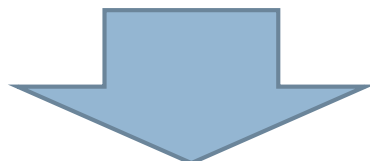
- ◆ 個々の障害の状態や発達段階に応じた課題に対応できるよう、具体的に指導内容を選定する → 『6つの区分』（27項目）
 1. 健康の保持
 2. 心理的な安定
 3. 人間関係の形成
 4. 環境の把握
 5. 身体の動き
 6. コミュニケーション

教育的支援に期待されること

- ① **強みを活かした学び方**，適切な支援方法，教材・教具の探求
 - 学生自身の主体性を尊重し，プライドにも配慮する
- ② 障害特性を踏まえた，**学び方・生活しづらさを軽減**するための取り組み
 - ICT機器の活用，ユニバーサルデザインを取り入れた授業
 - Social Skill Training，アングーマネージメント等
- ③ 学生本人の **学びづらさ・生活しづらさ** に基づく「**特性の自己理解**」を **支える** 取り組み
 - 将来的な社会参加や自立を視野に入れ，適切な進路選択が可能となるように
 - 自己権利擁護 Self-Advocacy の資質を涵養する

教育的支援の焦点

19



- ① 学び方のカスタマイズ
- ② 感情調整（calm down）の方法，集団適応のためのマナーやスキル，“Common Sense”の獲得
- ③ 障害特性を含めた“自分理解と自己受容”

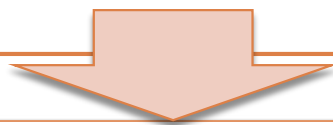
学習，生活，就労に必要な
支援および環境を自分で創出
することができる力の育成

まとめ

20

◆ 障害のある学生たちは…

- ▶ 支援を“受ける”側で在り続けると、受動的な姿勢が常態になってしまう
- ▶ 「自分の人生の**自分が主人公だ!**」という感覚を維持し続け、**自らが主体的に支援を求め**、必要な支援やサービスを取捨選択し、なければ引き寄せてくることができるようになってほしい
- ▶ 応えるヒトがいること、寄り添うそのヒトとの信頼関係（安全の基地）を起点として、主体的に生きられることを支援する



主体性の涵養， 社会で生きる力の土台作り

ご清聴いただき、

ありがとうございました！